

おわりに

◆ 今議会、「いつやるの?」「今でしょ!」という、私にとつて喫緊だつた三つの課題「災害ボランティアに関する請願採択・教育大綱・原発再稼働問題」を中心にして報告しました。専門用語が多くなつてわかりづらいかなあとなどと、悩み悩みのご報告です。

この議会だよりは、作成に一週間ぐらいかかります。実は、結構もがいております。まず、頭の血の巡りが良いように、締め付けない衣服(ジャージかパジャマ)で、ノンタクトは今ひとつ見えないので眼鏡に。(すごい近眼です((○_○)))

ちようど、作家や漫画家が原稿書くときの「冬眠中の穴熊」のような雰囲気で、「余計なものに気が散らないように、ホテルに缶詰になりました。」という気分。そんな贅沢はできませんが、一番仕事がはかどるのは、長距離移動の電車の中です。シートにじつと座つて、他に行きようがないので仕事するしかありません。だからいつもパソコン用電源のある席を求めてます。

議会の質問原稿を書くときも同様ですが、「もつとさつさとできないものか」と、自分の筆力向上が常の課題です。

◆ 先日、議員の資産公開がありました。議員はそれぞれ個性的に活動しますから、他の議員の状況は、新聞等でしかわかりません。私の資産は「乗用車と教員時代の退職金(定期預金)」です。

政務活動費は年間360万円の枠ですが、実際には数百万円使っています。主なものは、人件費・事務所維持費・議会だより費用・調査研究経費です。政務活動以外にも何かと支出が多いので、結局教員時代の貯えを使い果たして今に至るのです。

議員をやって「貯めよう」とは毛頭思っていないので、むしろ報酬をいただいて、存分に活動をさせていただける環境に感謝しております。またそれらの原資は「血税」です。皆様の負託に応えるべく、しつかり仕事してまいります。

細川かおり県政報告

第25号

● ホームページ www.kawori-hosokawa.com
● ブログ 「kawori ほりゅうネット」
<http://www.hosokawakawori.com/>

議会開会前に、「教育大綱(案)」が示されました。議会の議論を経て、今月策定予定でしたので、意見を述べました。

「知事が定める福井県の教育」として示された教育大綱案には、まず「難関大学対策」、「進路指導体制強化」、「英語の習熟度別学習」といった基本方針が並ぶ。

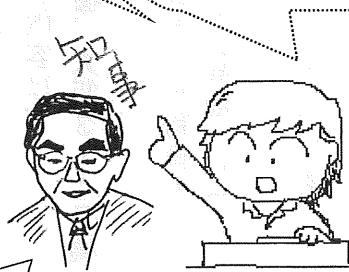
「これから読み取れるのは「難関校に合格し、英会話の堪能な若者が、大好きな福井で地域貢献する」という人づくりを目指すということだ。そうだとしたら、針の穴に糸を通すような話で、偏りがあると感じる。」

教育は『百年の計』。

教育はすべての子供たちに対し、「人として調和のとれた育成」を目指して行われるものであり、それは法の定めるところである。

いつたい、福井の教育はいかなる人間像をめざしているのか?

これまで最も重要なだとされていた『心の教育』はどうに消えたのか?



教育長

丁寧な教育、鍛える教育により、潜在能力を伸ばし、それぞれの得意分野で夢や目標の実現に向かって挑戦するとともに、社会人の自覚を持ち行動する人、海外との交流が活発となる中、相手を理解し、思いを伝えることのできる人を育てる。

それならば、なおのこと、その実現のためにどのような教育が必要かを「大綱」に盛り込むべきなのではないですか。
さらに業務改善や外部人材の活用などで、多忙化解消に努めたい。
教育研究所は、組織体制を充実する。
細川かおりの仕事
市長が、のんびりの仕事



細川かおりの仕事
市長が、のんびりの仕事

「基礎基本」を教えるという根幹の部分が薄く、枝葉である教育課題(英語の前倒し、白川文字学、国体など)カリキュラム以外の取り組みばかりが目に付く。これではますます現場の先生方が忙しくなる。教員の多忙化解消の取り組みは?

京都市の教育センターには、資料やすぐに授業で使える教具が数多く揃えてあり、学校がお願ひすれば配達してもらえる誠に羨ましい仕組みがあります。

そういう具体的な現場サポートの提案です。

旧春江高校跡に移転する教育研究所には現場をしっかりとサポートする機能が必要。他県のようなカリキュラムセンター機能を強化すべきだ。

心の教育の重要性は変わらない。
さるなる業務改善や外部人材の活用など

粘り強さ、心身の健康、自律心、自立心などを育む必要があるでしょう。「大綱」は福井の教育の根幹です。調和のとれた方針を立てるべきです。

県政報告会

10月29日(木)
「王子保公民館」

き と ところ 午後2時~
四郎丸町65-2-1
(鳥獣害対策、人口減少対策等)

11月5日(木)
「服間公民館」

き と ところ 午後7時半~
藤木町12-39-1
出前講座と座談会
(鳥獣害対策)

細川かおり県政報告 H27.10

発行: 福井県議会 細川かおり
<http://www.kawori-hosokawa.com>

事務所: 越前市村国1丁目2-11

TEL・FAX 42-5888

会計	6月補正	計
一般会計	36億円	4,858億円
特別会計	0	126億円
企業会計	0	356億円
計	36億円	5,340億円

原発再稼働問題

議会開会直前に、「原子力政策の堅持を求める陳情」が、「福井県原子力平和利用協議会」より提出されました。九州の川内原発では、県議会で再稼働に賛成する陳情を採択したことでの「地元同意」とされましたので、同様の手法なのかと緊張しました。

陳情が求める内容は、

- ① 高浜3・4号機、大飯3・4号機の早期再稼働
- ② 高経年化プラントの再稼働および、美浜3号機、高浜1・2号機のリプレース（新増設）実施
- ③ 破碎帯の公正かつ迅速な審査の実施
- ④ 廃炉にともなう安全確保
- ⑤ 立地地域への経済支援
- ⑥ 核燃料サイクル及びもんじゅの開発促進
- ⑦ 原子力防災・避難道路の早期整備

→この陳情は、原子力発電・防災対策特別委員会に負託されることとなりました。でも、もし採択されたら、再稼働だけでなく、もんじゅや老朽プラントの運転、さらにリプレースも認めることになるのかと、唖然としました。そこで、特別委員会審議の先に行う一般質問と厚生常任委員会で、現在の原子力行政に対する意見を述べることになりました。

→この陳情は、福井県民が責任（賠償も含む）を負うことがあつてはならないし、現状、そのための条件整備はできていませんが、「条件整備が整っていない」という点では、「細川議員の言うことはもつとも」、ベテラン自民党議員の理解も得ることができました。その後、陳情は時期尚早と取り下げられました。

【新規事業（抜粋）】

- ◎県内大学生の定着促進 1,500万円
- ◎大学連携センター開設準備 610万円
- ◎サンドーム福井管理棟再整備 2,280万円
- ◎幕末明治150年福井の偉人発信プロジェクト 1,072万円
- ◎丸岡城国宝化推進 187万円
- ◎小松空港利用促進 450万円

議論より（抜粋）

・福島事故後の安全に関する考え方は、IAEAに習つて「5層の防護」となったが、規制委員会は4層目（過酷事故対策）までの審査であり、「安全」判断できない。5層目（防災対策と住民避難対策）が必要で、実効性ある住民避難計画がなければ事業者は「事業者防災業務計画」が作成できない。地方任せになつている避難計画の実効性を、検証・委員会を作つて審査すべきである。

災害ボランティア割引制度化を
35万人署名 議連に提出

神戸の団体

署名を受け取る議連会長の長島忠美衆議院議員（元新潟県山古志村の村長）。手渡すのは、宮城県名取市の閑上（ゆりあげ）地区の自治会長さんや東北大学の先生、ひょうごボランタリープラザの代表代理ら。署名は、私が越前市村国の事務所で保管しています。・・・重い(^_^;)）

災害ボランティア割引制度創設を
国に求める請願、全会一致で採択！

私は事務局長なので、全国の会員（約400名）がその活動に取り組めるよう、文書作成や問い合わせ対応などの段取りに奔走。

福井県議会にも県内ボランティア団体から「災害ボランティア割引制度の実現を求める請願」を提出していただきました。私は採択に向け、議連の福井支部創設や根回しに走り回り、最終日には「全会一致」で請願採扱ったことを第一歩として、国への働きかけをさらに広める所存です。

このことを第一歩として、国への働きかけを始めました。

私は事務局長なので、全国の会員（約400名）がその活動に取り組めるよう、文書作成や問い合わせ対応などの段取りに奔走。

福井県議会にも県内ボランティア団体から「災害ボランティア割引制度の実現を求める請願」を提出していただきました。私は採択に向け、議連の福井支部創設や根回しに走り回り、最終日には「全会一致」で請願採扱ったことを第一歩として、国への働きかけをさらに広める所存です。